



楷樹 (山崎記念館前)

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

肥後医育ニューズレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人肥後医育振興会
 〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号
 TEL・FAX (096) 373-5425
 ホームページ <http://www.119higo.com/>
 E-mail 119higo@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp
 理事 西 勝英 編集人 木原 信市
 印刷所 懶城野印刷所 TEL (096) 286-3366(代)

理事長就任の挨拶



平成二十六年六月神原理事長退任に伴い、財団法人肥後医育振興会理事會にて次期理事長に推薦され、評議会の議を経て新たに理事長に就任いたしました。ここに、理事長就任のご挨拶を申し上げます。

熊本の地域医療は熊本大学医学部、医療教育機関、ならびに熊本県近傍の医科・医療系大学の教育研究、診療によって支えられていると言っても過言ではありません。このような現状に鑑み、日進月歩の現代医療を熊本県民に提供する医療機関に対して協力、支援する組織が必要となりました。さらに、県民に対する適切な医学・医療啓発活動の重要性も高まる一方です。一方、医学における各専門分野の研究も高度になり、医学・医療関係者の国際交流により、より適切な医療の提供が求められています。

このような観点から、平成八年五月、熊本大学医学部創立百周年を機に、細川藩の再春館創設以来二五〇年及び肥後医育の伝統を基にして、熊本の医療を支える財団法人肥後医育振興会が設立されました。設立以来十八年を経過し、これまで熊本での医学教育や研究を助成し、地域医療の向上と住民の健康増進を図るための努力をかさねてまいりました。

過去十三年余に及び努力が実り、肥後医育振興会は平成二十一年十二月二十一日に熊本県の第一号公益法人認定を受け、平成二十二年一月四日に公益財団法人肥後医育振興会に脱皮することができました。公益法人となり既に四年を経

理事長 西 勝英

過し、ますます法人組織として重要な役目を果たさなければならぬ時期に到達してまいります。このような時期に四代目理事長として就任し、責任の重大性を感じております。幸い、過去の活動が県民の皆様、医療関係の皆様、認知並びに多大の支援を受け発展してまいりました。今後、これらの過去の業績を継承し、更に新たな活動を展開したいと念願している次第です。

一層の公益活動の義務を負うものとして、医学、医療の研究活動に対する更なる助成活動、並びに県民の皆様に対する正しい医療情報の提供の充実を図り県民の皆様健康増進に貢献できる体制作りを進めたいと考えています。幸い、熊本大学として選定されました。ますます医学、医療関連分野の発展が期待されるところであります。本財団も熊本大学と密接な関係を保ち、医療、医学研究に協力、助成したいと考えております。一方、高齢社会を迎え、医療は従前とは異なった局面を迎えるようになり、県民の皆様が高齢者医療の様々な問題を提起しより住みやすい超高齢社会の構築に公益法人としての役目を発揮したいと考えております。

以上の事業を達成するためには、財政面での健全化が求められるところであります。先進諸外国ではこのような財団に対して多くの寄付金が寄せられ、大学、病院、医療関連施設の運営に寄与しているやに伺います。現在経済状態厳しい折ではありますが、皆様方の協力を切にお願いする次第です。幸い、公益財団に対する皆様方の

ご寄附は税制面での優遇措置が講じられることになっており、皆様方のご支援を期待するところであります。このことは、皆様方と公益財団との間により強固な結びつきをもたらす可能性を秘めたものでもあると思っております。

今後は、熊本県公益財団法人認定第一号の栄誉を汚すことなく、熊本県の医育のためにさらなる努力と工夫とを重ねたいと存じますので、ますますのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

副理事長就任のご挨拶



山本 哲郎 (財)肥後医育振興会が平成八年五月に

発足して以来、庶務担当常任理事を務めてまいりました。この度、神原理事長のご勇退に伴い、西副理事長が新理事長に就任されたことから、副理事長を務めることになりました。まずは、この紙面をお借りして、神原前理事長をご慰労させていただきます。今後は、西新理事長を支え、財団の礎を築かれた徳臣、岡崎そして神原の三代の理事長の方針の継承に向けて努力いたします所存です。

本公益財団法人は、その名の示す通り、「再春館医学学校」以来二五〇年を超す「肥後医育」の伝統を受けて、熊本県における医学、医療、医学教育の振興を側面からお手伝いする役割を持つものと理解しております。医学、医療、医学教育は、現代社会において、学術、産業として生活に与する極めて幅広い内容を含んでおり、熊本県はその先進県の一つです。本法人は、類似の財団法人としては日本で二番目に設立されたものですが、

医学系の大学や専門学校、研究機関あるいは医療機関と県民との間の架け橋の一つになることで、この熊本を柱をさらに大きくしていく役割を果たして行けると思っております。平成二十二年一月に公益財団法人となり、全国学会の開催に必要な寄付金を受け入れる窓口になるようになつたことは、この役割を果たす上で大きな効力を発揮しております。

ところで、日本は超高齢社会を迎えており、二〇三〇年ごろには国民の約三〇%が六五歳以上になるといわれられています。その時期を、若い世代への負担を増やさないようになり方、地域内の協力を中心にして乗り切っていくかねばなりません。そのためには、医療、介護、健康維持の能力の向上を熊本県の県民の総力を挙げて図っていく必要があると思っております。医療や介護に関する専門職はいまや三〇種を優に超えていますとされており、医療・介護力は、それらの専門職の育成と専門職間の連携にかかっていると思っております。本法人の公益事業の一つとして今年度第五回目を迎える「熊本県医療人育成総合会議」は医療専門職の育成と連携のお手伝いをするユニークな会議だと思っております。

さて、本法人の最高意思決定機関は評議員会ですが、それは三〇名に及び評議員で構成されており、しかも、医学、医療、医学教育の各界の代表に加えて、行政、財界や報道関係の方々もおられます。そのような評議員会の構成は、今後、肥後医育振興会が取り組むべき新たな課題を見出し、いくつでも最適なものだと思います。評議員会や監事の先生方のご指導のもと、西理事長を始め理事の諸先生方と力を合わせて役目に取り組みたいと思っております。皆様幅広いお力添えをお願いいたします。